

## 堀田先生からの指導の要点

北方小・研究推進委員会

2007年4月11日の指導より抜粋

### 今年度の研究に期待すること

今年示すべきは、「これくらい学力がついた」ということ。伸びた部分を取り出し、  
どういうふうに指導したらこれくらい伸びたということを示すこと。

学力すべてを対象にする必要はない。ICTが効くところを中心に学力向上に取り組みばいい。  
(学ぶ意欲, 知識, できるようになる技能など)

参加者が知りたいのは、どうやったら学力が伸びるかということ。

示し方

「こういう手立て(指導)が有効で、その結果これくらい知識が定着する。」

「こういう手立て(指導)が有効で、その結果これくらい技能が定着する。」

「子どもたちに思考させるために、こういう場面でICTを活用するのが有効である。」 など

北方小が今年度取り組むこと

「学力を伸ばすための指導法では、これが有効です。」

「みなさんも、こうやってみてください。」

「これ」「こうやって」の部分を具体的に、目指す学力ごとに、端的に示し、具体的な事例と対応させながらまとめる(成果を示す)ことが、今年度の大きな仕事である。

今年度のウリはどれか

どれも大事だということはよく分かっている

どれに重点をおいて研究を進めるかという視点が大事

全部を1年で研究することは無理

### 北方小の研究とICT

学ぶ意欲とスキルを高め、確かな学力を身に付けさせる方法はいろいろある。

ICTはそのうちの一つ。「いろいろあります」という発表ではだめ。絞り込む。

ICTをうまく活用し、他の方法とからめて成果を上げることが大事。

外からは「北方小はICT」と見られているだろう。戦略としてそれは大事。

ICTだと思って来たら、実は授業づくりの話が中心だったという構造がミソ。

